

令和6年度（2024年度）函館市地球温暖化対策地域推進協議会 会議概要

- 1 日時 令和6年（2024年）5月20日（月）午後2時～3時00分
- 2 場所 函館市役所本庁舎8階大会議室
- 3 出席者 委員（15人）
松崎静江委員，武田和男委員，嶋村翔委員，小林裕司委員，松澤謙司委員，
渡部浩典委員，砂原壮吉委員，須賀昌昭委員，秋山範文委員，渡谷能孝委員，
渡邊秀雄委員（代理山本課長補佐），阿部泰人委員，池田誠委員，宮川真人委
員（代理本田係長），田中修一委員
事務局（5人）
事務局長 百成慶恭（環境部環境政策課長）
事務局員 福田誠（同課主査），佐々木竜吾（同課主任），
高島一輝（同課主事）
- 4 傍聴者 なし（随行者2人（渡島総合振興局保健環境部環境生活課））
- 5 発言要旨
 - (1) 開会
(事務局)
 - ・ 座席順に出席委員の紹介
 - ・ 事務局長から事務局員の紹介
 - ・ 資料の確認
 - (2) 議事
 - 挨拶
(池田会長)
それでは議事をはじめます。
本日の会議では，昨年度の事業報告や，今年度の事業計画について，報告あるいは提案がございますので，忌憚のないご意見をいただければと思いますので，よろしくお願ひします。
本日の終了予定時刻は，午後3時半を予定しておりますので，皆様のご協力をお願いいたします。
それでは議題に入りたいと思います。
 - ア 令和5年度（2023年度）事業報告について
事務局から「資料1-1 令和5年度（2023年度）事業報告について（報告）」
および「資料1-2 令和5年度（2023年度）はこだてスマートムーブデーの実
施状況について（報告）」により報告
※ 委員：意見なし
 - イ 函館市の温室効果ガスの排出状況について
事務局から「資料2 2020（令和2）年度函館市の温室効果ガスの排出状況および計
画に基づく2023（令和5）年度進行管理指標の進捗状況（報告）」により報告
(阿部委員)
 - ・ 二酸化炭素の排出状況に関する様々な数値を出していただいたが，どのように
算出しているのか。(事務局)
 - ・ 温室効果ガスの排出量については，大部分を二酸化炭素が占めているが，基本
的には北海道の排出量などから函館市の人口などを利用して按分して算出して
いる。

(阿部委員)

- ・ 北海道の排出量は、どのように算出しているのか。

(事務局)

- ・ 都道府県別のエネルギー消費統計から計算して算出している。

(阿部委員)

- ・ 函館市独自に測ったものから出しているのではなく、統計値から算出しているということか。

(事務局)

- ・ そのとおりである。

(武田委員)

- ・ 資料2の4ページに1世帯あたりの二酸化炭素排出量の推移が記載されているが、どのように算出したのか。

(事務局)

- ・ 北海道の排出量から按分した函館市の排出量を算出し、その数値を函館市の世帯数で割って、1世帯あたりの二酸化炭素排出量を算出している。

(小林委員)

- ・ 北海道の数値から按分して算出ということだが、都市部、北海道だと札幌圏内などと、著しく産業形態や人口、世帯数が違う。按分して本当に函館に反映できるのかと思うが。

(事務局)

- ・ 温室効果ガス排出量の計算方法については、国において地域の排出量を推計するためのマニュアルを策定しており、それに基づいて算出している。

(松崎委員)

- ・ もう少し親近感ある日常に基づいた資料を策定して、各町会に配布することは無理だろうか。市民の方に現状を知っていただくが大事だと思う。

(事務局)

- ・ 市民にも分かりやすく伝えるために、今年度、市の方でゼロカーボンに向けてリーフレット作成を予定しており、分かりやすく工夫した記載を検討したい。

ウ 令和6年度(2024年度)事業計画(案)について

事務局から「資料3-1 令和6年度(2024年度)事業計画(案)について」,
「資料3-2 令和6年度(2024年度)はこだてスマートムーブデー事業(案)
について」により説明

(池田会長)

- ・ 街頭啓発について説明があったが、実施場所について、一巡りして本町交差点という提案があったが、いかがだろうか。

(小林委員)

- ・ スマートムーブデーや今期の事業の内容だが、あまり代わり映えのしない内容となっている。どれだけの成果が見られるかという部分で、参加団体の割合しか出てないが、市全体でスマートムーブデーの成果を見せることは難しいか。

(事務局)

- ・ スマートムーブデーの広報については、SNS等を通じて様々な団体や市民に向けて行っているが、取組をどの程度実施しているかについては、参加団体へのアンケートのみとなっている。市全体での効果を把握することは、難しいと思うが、継続して行っていくことが重要だと思うので、引き続き効果的に展開していけるよう検討したい。

(池田会長)

- ・ 先ほどの話に戻るが、街頭啓発の実施場所として、本町交差点でよろしいか。

※ 委員：異議なし

(池田会長)

- ・ 昨年、白熱した新たな事業の検討に係る提案の募集について、質問や意見はないか。

(武田委員)

- ・ 昨年、出席していなかったもので、概略を教えてください。

(事務局)

- ・ 昨年度に引き続きの募集となるが、昨年度は事業規模の説明が不足しており、皆様から質問をいただき、その説明も不足していた点もあったことから、事業規模の上限は設けず、今年度、募集したいと考えている。

(武田委員)

- ・ 家庭での二酸化炭素排出量が減っているということだが、今までの取組でいいのかなと安易に感じる人もいるのではないか。

(事務局)

- ・ 仰るとおり、減ってきてはいるが、計画にもあるが2030年度の46%削減に向けて、より一層削減できるよう周知啓発に努めていきたいと考えている。

(武田委員)

- ・ 2020年度は23.9%削減したいということだが、本来の目標はどこまで削減することとなっているのか。

(事務局)

- ・ 資料2の1ページの上段に温室効果ガスの総排出量の文字が太字で記載しているが、その下の「※」のところに区域施策編における2030年度削減目標は、2013年度比で-46%としており、1世帯当たりのCO₂排出量については、資料2の5ページになるが、基本方針1 省エネルギーの推進に記載があるが、現状4.1t-CO₂を2030年度の目標値として1.9t-CO₂以下という目標を定め、各種施策を実施している。

(武田委員)

- ・ 家庭で見ると現状から約半分を削減することとなり、大変な努力を要することとなるが、日本中、世界中で取り組まなければならないという状況だと、改めて認識した。

(須賀委員)

- ・ 天然ガスというCO₂を発生するエネルギーを扱っている事業者として、省エネに係わる HEMS やエコジョーズなどのシステムを普及促進しており、天然ガスは、石油・石炭に比べ低炭素になるので、天然ガスを普及することでCO₂減らせるという現状になっている。函館市と今後取り組んでいかなければならないのが、ガスそのものを水素化していくことや、ガスそのものはメタンという成分なので、それを再エネ由来にする、あるいは、排出したCO₂を函館市のグリーン・ブルーカーボンのクレジットを事業者が購入し、地域にお金を落として相殺していく取組が必要だと思っている。規模は小さいが電力の事業も行っており、電源の比率を太陽光、風力、地熱といった再エネ由来に変えていき、地域で消費することで、地域でエネルギーを活用し地域で完結させることで、雇用やDXを函館に提言していくということで、函館市の環境政策課と同様に私どもも環境・地域共創推進部を4月に立ち上げ、エネルギーの地産地消の取組を推進していきたいと考えている。

(阿部委員)

- ・ CO₂の削減の話に戻るが、資料2の5ページで、目標ということで2030年度には家庭部門で半分くらいCO₂を削減しなければならないということだが、これも北海道の数値を按分したものなのか。

(事務局)

- ・ 現状値は、按分した数値から導き出した函館市の排出量を世帯数で割ったものとなっている。

(阿部委員)

- ・ 函館市が目指す数値なのか。

(事務局)

- ・ そうである。

(阿部委員)

- ・ 函館市は北海道全体では人口になると5%、1/20程度しかない。5%の人達がどれだけ頑張っても、北海道全体の数値に影響させることは、なかなか難しいと思う。函館市が目標を立てるのはいいが、結局、算出している数値が北海道からの按分である限り、北海道全体が削減できないと達成できないのではないかと。

(事務局)

- ・ 仰るとおり、計算方法から考えていくと北海道全体の数値が下がっていかないと目標の達成は難しいとは思っている。

(阿部委員)

- ・ この目標を達成したいという思いがあるのであれば、他の自治体と連携して取り組んでいくという機運があってもいいと思う。

(事務局)

- ・ 現段階では、函館市として計画を策定し、その目標に向けて、市民、事業者と連携しながら、函館市のなかで温室効果ガスの排出削減をしていくこととしているが、北海道、渡島総合振興局とも連携しながら、もう少し広い範囲で排出量削減に向けて取り組んでいかなければならないと思っている。

(阿部委員)

- ・ 函館市独自で温室効果ガス排出量を測るシステムを構築し、先ほどスマートムーブデーの成果という話もあったが、自分で測ることができれば、どれだけ反映されているのか実感がわいて、次のモチベーションにつながると思う。目標達成が実感できないし、活動している人の実感がなくて、次につながらないと思う。

(事務局)

- ・ 計算方法については、繰り返しになるが、国で算出方法を定めており、それに基づき北海道の数値を按分して排出量を計算している。函館市として頑張った分が北海道の数値に結びつくのかという点については、微々たるものでしかないのかもしれないが、北海道全体で排出量を削減していく中で、函館市も中核市として温室効果ガス削減に向けて施策に取り組んでいかないと、他の自治体も追随してこないと思う。モチベーションの部分で難しいのかもしれないが、引き続き、各種施策に取り組んで参りたい。

(池田会長)

- ・ 他に意見がなければ、令和6年度の事業計画(案)について、承認ということでよろしいか。

※ 委員：異議なし

エ はこだてスマートムーブデー優秀団体の表彰について

事務局から「資料4 はこだてスマートムーブデー優秀団体の表彰について（報告）」により報告

（小林委員）

- ・ 事業提案に戻るが、事業提案してみたいことが多々あったが、昨年度は予算規模が分からなく、事業内容も普及啓発ということだったので、提案しなかったが、参考までに昨年度の提案はどの程度あったのか。

（事務局）

- ・ 昨年度は1件いただいた。
昨年度の事業提案については、全体像が整理されないままの依頼となり申し訳なかった。今年度から再生可能エネルギーの普及促進も環境部で実施していくことになるが、環境部では今年度、地球温暖化対策に限らず、今までの広報啓発活動を再構築させていただきたいと考えている。役所が考えるのは偏ってしまい、どこも同じようなことをして効果があるのかというものが多いので、推進協議会の皆さんからは、金額がどうこうではなく、我々では思いつかないような発想で提示させていただきたいというのが本来の主旨である。今回、昨年度提案いただいた件も含めて、改めて事業募集をする。一度集約をした段階で、再度、協議会を開催するか分科会的なもので検討していくか会長と協議させて決めさせていただき、何らかの形で議論したものを協議会の案として函館市に答申していただきたいと考えている。それを函館市として新年度予算要求をしたいと考えている。

（池田会長）

- ・ 皆さん気になっていた提案募集について説明があったが、はこだてスマートムーブデー優秀団体の表彰に戻るが、何か意見等はあるか。

※ 委員：意見なし

オ その他

（池田会長）

- ・ 事務局から何かありますか。

（事務局）

- ・ 本日承認いただいた令和6年度の活動については、皆さまからいただいたご意見を十分配慮し行っていくので、ご協力をお願いいたします。なお、はこだてスマートムーブデーの参加団体については、随時募集しているので、皆様が所属している団体の関係団体などに、本事業への参加についてお声がけをお願いします。

（池田会長）

- ・ 以上をもちまして、本日の協議会を終了します。委員の皆様、ありがとうございました。

(3) 閉会